

第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 (ホール審査) 総評 大学生部門

●審査員 A

アジア大会に相応しい充実した内容の演奏が多くて聞き応えが有りました。気になった点としてエチュードと自由曲の両方が揃って高水準を維持された方が少なかったです。特にエチュードの完成度はかなりムラがあったようです。また自由曲はとても自己主張有る個性的な表現も多かったですが、その事を意識しすぎたせいかテンポやリズムの崩れや乱れが余りに多く感じました。ショパンの表現では安定したテンポをベースに、しなやかな揺れをもって自由さを獲得することが肝要だと思います。またスコアの読み方がやや雑でエディションを考慮しても明らかに音ミスやリズムミスが散見されたことにも気になりました。ただどの方からも大きい可能性が感じられました。これからの一層の精進を願っています。

●審査員 B

どのピアニストも非常に優れたピアノ技術を持っていらっしゃる、皆さんに賛辞を送りたいと思います。皆さん指はしっかりとされているので、更に成熟した解釈にも気を配れるとよいでしょう。特にペダリングについては再考の余地があり、ペダルの使い過ぎ、また適切な場所での踏みかえができていないことが目立ちました。その結果、ショパンの音楽で重要なアーティキュレーションとバランスの明瞭さが失われてしまっていました。ペダリングは常に会場の響きに合わせましょう。残響の多い大きなホールでは、補正が必要となります。

もうひとつは、正しい形式構造です。幻想ポロネーズ、バラード作品 52、幻想曲作品 49 のような曲の場合、特に熟考を重ねる必要があります。どの部分が重要で、どの部分がそれほど重要ではないか、クライマックスはどこにあるかを認識しましょう。ショパンのこの時期の作品の特徴は、カデンツを避けていることと、ポリフォニックな要素を用いることで、このことについて更に深く知る価値はあると思います。これらの作品の形式分析は難しいですが必要なことであり、インターネット上でも多くの文献を読むことができます。直感のみで演奏することは、かなり危険を伴います。

そして最後に…いくつかの作品には、重要なシンボリックな側面があります。例えば、幻想曲作品 49 は非常にドラマチックな作品で、ポーランドの愛国歌からの引用が多く見られます。作品の歴史的背景を知ることにも有意義なことでしょう…これらのことを学ぶことはとても素晴らしいことですし、成熟した解釈へも繋がっていきます。皆さんには大きな可能性があります！活躍を祈っています！

●審査員 C

皆様よく頑張られました。

エチュード

拍感をもって歌えるといいかなと思いました。拍を感じず、ダーと流れてしまう場合があるので、呼吸を大切にまとめられるといいですね。

曲

構成を理解して聴き手に Chopin の心情を語れるといいですね。音をただ並べてしまわずに表情のある音づくりを大切に仕上げられるといいですね。

●審査員 D

アジア大会になると個性豊かな様々な演奏がありました。ただし、自分勝手な演奏にならないように楽譜を見直してショパンの音楽の基本を忘れないように。

tempo が速すぎないように、音が強すぎ乱暴にならないようにするなど、注意して下さい。

●審査員 E

・まずは鍵盤を深くとらえたよい打鍵の音色を理解して下さい。楽器の音をきちんとホール内に届けられないことには表現が始まりません。発信だけでなく、受け取る側のことも想像しましょう。

・速い練習だけでなく、遅い練習をしっかりと積み重ねて遅筋をきたえたいです。ためのきく、美しい音色がショパンには絶対的に必要です。

・レガートを目指して下さい。Ped でつなげるのではなく、指のレガートです。

・指を速く動かすというメカニックよりも音楽を正しく読みとり表現することを叶えるための技術とは何か、求めていますね。

・ショパンの描き出した音楽に瑞々しく反応しているのでしょうか。ショパンともっともっと会話して下さい。そうすれば全体の構成やこのセクションで何をすべきか？和声の変化がどのような意味を持つか？エネルギーの方向性をどう表現するか？という「音楽」が理解できるようになると思います。

皆さんのさらなる飛躍を心から応援しています！